

# ふれあい曾山医院

志筑1391-9  
Tel:62-5566

2017年5月号  
(第108号)

発行人  
曾山 信彦



編集委員会

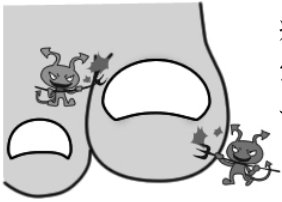


藤島・棟近  
西岡・福井  
谷岡・赤松  
山内・廣岡

## 爪水虫の治療と感染予防

### ■症状

水虫の最終形である爪水虫、正式名称は爪白癬（つめはくせん）と言います。水虫を長い間患っている、爪の間にも白癬菌が侵入し爪が白く変色していきます。最終的には、靴が履けなくなったり、歩きにくくなったりと日常生活にも支障を来たすようになります。また、放っておくと家族や周りの人間にも感染しますので早めの対処が求められます。



### ■治療

水虫の治療方法は基本的に二つしかありません。その一つが内服薬、つまり飲み薬です。水虫の場合は外用薬での治療が基本ですが、爪水虫の場合、外用薬のみでの治療は困難な場合が多いです。

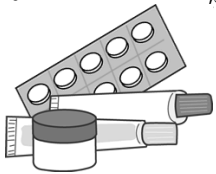
そこで最も一般的なのが飲み薬による治療方法です。

ラミシールなどの飲み薬を1日1錠ずつ飲んで根気よく治療していきます。個人差と指による差もありますが、およそ手の爪は3ヶ月、足の爪は1年で生え変わりますので、その期間を目安にしましょう。ただ、この治療方法は副作用として、稀に肝機能障害を起こすケースがあります。

ります。しかし、副作用が全く無い内服薬など存在しませんから、医師と相談し適切に対処すれば、必要以上に恐れる心配はありません。もう一つの方法は外用薬、つまり塗り薬です。爪と爪の間に抗真菌薬を塗布することで、外部から滅菌する治療方法です。通常、爪水虫は爪だけではなく、指の間などにも症状が出てくるケースが多いです。で、外用薬を併用することで効果を高めます。

結論から言うと自然治癒はしません。放っておけば

放っておくほど悪化します。ですので、すぐに治療が必要です。



### ■感染

白癬菌が入り込む皮膚の角質層は、白血球が到達できないエリアであり、さらに新陳代謝をのぐスピードで増殖します。結果、日本全国で推定250万人の水虫患者、120万人の爪水虫患者となっているのです。

感染者数からみても、自然治癒が不可な事をご理解頂けると思いますが、自然治癒不可となれば基本的に我々ができることは予防です。

ですが、白癬菌の感染予防はさほど難しいものではないです。というのは白癬菌が皮膚についてから感染するまでには24時間かかると言われているからです。つまり1日1回しっかり洗い流せば、白癬菌に感染することはないのです。

### ■予防

現代人は毎日お風呂に入る方が大半でしょうから、毎日のお風呂で足の裏などをしっかりと洗っていただければ爪水虫になることはほとんどないのです。

予防方法の一つとして足湯も効果的です。白癬菌は、温度15℃～20℃で最も活性化すると知られていますので、40℃～45℃の足湯に毎日入ることで白癬菌の活性化を抑えて、爪水虫にかかるリスクを最小化することができます。爪水虫は水虫から感染が広がるケースが大半です。

水虫の段階であれば外用薬のみでの対処も可能であり、治療も簡単です。ですので水虫の段階で対処することを強く推奨致します。



40～45℃の足湯

「所詮、ただの水虫だ」と軽く見ていると、大変危険です。糖尿病の方であれば合併症のリスクもあります。

初期や早期であれば、費用も大きく掛かることはありませんし、放置すればするほど事態が悪化するのとは違いありません。自分は大丈夫でも周りの人間は大丈夫ではないかもしれせん。

感染力の強さが爪水虫の怖さでもあります。自分自身のためにも、周りに感染させない為にも、早めに対処するようにしましょう。（看護師 藤島 敦子）